

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみをもっている児童が多い。 ・鉛筆の持ち方や書く姿勢、平仮名、片仮名の活用が十分ではない。 ・最後まで落ち着いて話を聞くことや大事なことを落とさずに正しく聞きとることに課題がある。 ・自分の考えをもち、皆の前で伝えることが苦手な児童が数名いる。 ・自分の考えを文章に表すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の読み聞かせを通して読書の楽しさを味わわせる。読み聞かせを通して読書の楽しさを感じ、読書記録に書いたり紹介したりして振り返りながら、読書の機会を増やしていく。 ・平仮名、片仮名、漢字の正しい書き順や姿勢を授業で確認する機会を増やし、日頃から細やかに声を掛けていく。「とめ」「はね」「はらい」の文字の基礎の定着と、正しい鉛筆の持ち方について常に声を掛けながら意識させていく。 ・聞くとときには手を止め、話し手を見るなど聞く姿勢を身に付けさせる。また、適切な声の大きさや速さなどについて意識させる。感想を伝えたり質問したりする機会をつくる。 ・文字を正しく書くことや句点を打つなどの文法に気を付けて短い文章を書くことを中心に指導する。書きたいことを言葉で言わせ、書くときの語彙や文章のパターンを増やしていく。継続的に日記などに取り組み、文章を書く機会を増やす。 ・グループでの話し合いをたくさん取り入れる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算（たし算、ひき算）は大多数ができていたが、個人差が大きい。 ・10の構成が十分に理解できていない。 ・量感が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の合成分解（10を重点的に）の習熟を図る。繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算の仕組みをブロックや図で表現しながら理解させ、練習問題に十分取り組ませる。計算カードを活用して習熟を図る。 ・問題文を読み、「分かっていること」「問われていること」に印をつけ、問題の内容が理解できるよう絵や図、具体物などを活用しながら増減の様子を捉えさせ、立式につなげていく。さらに、考え方を図に表す方法にも取り組ませる。 ・日常の中で、色水の量を比べたり、物の長さを比べる活動を取り入れながら、量感を養う活動を取り入れていく。 ・作図の学習に繋がるよう折り紙や箱などの具体物を用い、形の特徴を捉えさせる。 ・自分の考えをノートに書かせる時間を確保し、それを児童が共有するために、全体で発言の場を設けたり、ICT機器を活用したりし、考えを表現する機会を充実させる。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・植物を育てたり、見たこと、気付いたことを絵や文で表したりする活動に意欲をもって取り組んでいる。一人一人が、それぞれの思いをもって育てている。 ・見たことや体験したことを絵や文に表すことができる児童と苦手な児童との差が大きい。 ・校内や地域、身近な動植物に対する関心はあるが、触れ合う経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培活動、飼育活動、探検活動などの体験活動を多く取り入れ、児童の経験を増やし、児童の心が動くような学習計画を立て、実施する。 ・観察する際の視点やポイントを児童に明確に示し、段階に合わせた体験活動を実施していく。 ・本校・地域の特色に基づいた具体的な指導を実施して、児童の豊かな経験や気付きが保証されるようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって授業に臨んでいる。規律を守れなかったり、活動に取り組むことができなかったりする児童がいる。 ・発声や音程に気を付けて歌える児童が多い。思いや意図をもって表現できる児童と苦手な児童との差が大きい。 ・鍵盤ハーモニカの演奏の技能に個人差があり、概ね指遣いに気を付けて吹けている。 ・聴いた音に対しての感受性はあるが、言葉で表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの指遣いやタンギングなどの技術を習得し、奏法の定着を図る。習得につまづきのある児童に対し、つまづきの状況に応じて教師が個別支援を行い教科書をもとにリズム学習を行う。 ・曲の歌詞や雰囲気から情景を思い浮かべて、声の大きさを感じ取り身体表現を工夫するように指導する。 ・季節や行事に合わせた歌や、児童の意見に沿った曲を入れ、一人一人の声が合わさると音は広がりをもっていくことの経験をさせる。 		

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に関心が高く、楽しみながら、意欲的に取り組むことのできる児童が多い。 ・道具の基本的な扱いについての技能が不十分な児童がいる。 ・他者の作品に関心はもち、自分の作品に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な題材や素材を使った作品を提示したり、児童の目の前で使い方を見せて実践したりしながら、楽しみを膨らませ取り組みたくなるような意欲を引き出す。 ・ハサミ、のり、絵の具などの基本的な使い方を身に付けさせる。指先で糊をつける、紙をちぎるなど、指先をたくさん使わせる。 ・制作過程を細かく段階を踏んで視覚的に分かりやすく説明する。ヒントになるような言葉掛けをしたり取り組みを褒めたりして自信をもたせるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多い。生活経験の差から、体の動かし方が分からない児童がいる。 ・学習カードを活用し、学習の振り返りを行うことができている。 ・ペア学習やグループ活動によって、友達とかわりあうことを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき6年生まで見通した縦の系統を意識して、様々な動きや思考が働く運動遊びを楽しみながら経験させていく。 ・単位時間での運動量を十分に確保するため、教師の説明や集合の回数を吟味する。話の聞き方や集団行動のルールを徹底し、児童一人一人がてきぱきと行動できる規律のある集団を育てる。 ・教師が率先して努力していた児童を認めることで、児童同士でよいところを見付け合い、認め合えるようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみをもっており、活動に取り組まない子はいない。大人に読んでもらうことが好きである。 ・鉛筆の持ち方や書く姿勢、平仮名、片仮名の活用が十分ではない。 ・最後まで落ち着いて話を聞くことや大事なことを落とさずに正しく聞きとることに課題がある。 ・考えをもち、皆の前で伝えることができる。 ・自分の考えを文章に表すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のゴールを伝え、目的意識をもって、自分で計画的に学習しようとする姿勢を育てる。また、単元の終末には、自分の学習の成果や態度を振り返るようにし、次の学習に生かしていくよう指導する。 ・教師の読み聞かせを通して読書の楽しさを味わわせる。読み聞かせを通して読書の楽しさを感じ、読書記録に書いたり紹介したりして振り返りながら、読書の機会を増やしていく。 ・平仮名、片仮名、漢字の正しい書き順や姿勢を授業で確認する機会を増やし、日頃から細やかに声を掛けていく。「とめ」「はね」「はらい」の文字の基礎の定着と、正しい鉛筆の持ち方について常に声を掛けながら意識させていく。 ・聞くときには手を止め、話し手を見るなど聞く姿勢を身に付けさせる。また、適切な声の大きさや速さなどについて意識させる。感想を伝えたり質問したりする機会をつくる。 ・文字を正しく書くことや句点を打つなどの文法に気を付けて短い文章を書くことを中心に指導する。書きたいことを言葉で言わせ、書くときの語彙や文章のパターンを増やしていく。継続的に日記などに取り組み、文章を書く機会を増やす。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算（たし算、ひき算）は大多数ができていますが、個人差が大きい。 ・10の構成が十分に理解できていない。 ・時計の読み方が十分に理解できていない。 ・量感が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の合成分解（10を重点的に）の習熟を図る。繰り上がりのある足し算や繰り下がりのある引き算の仕組みをブロックや図で表現しながら理解させ、練習問題に十分取り組ませる。計算カードを活用して習熟を図る。 ・問題文を読み、「分かっていること」「問われていること」に印をつけ、問題の内容が理解できるよう絵や図、具体物などを活用しながら増減の様子を捉えさせ、立式につなげていく。考え方を図に表し、取り組ませる。 ・長さや水のかさでは、dL、ますやものさしなどの具体物を実際に使う活動を通して量感を養う活動を取り入れていく。 ・日常の中で、時計の読み方や時間に触れさせ、定着させる。 ・自分の考えをノートに書かせる時間を確保し、それを児童が共有するために、全体で発言の場を設けたり、ICT機器を活用したりし、考えを表現する機会を充実させる。 		
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・植物を育てたり、見たこと、気付いたことを絵や文で表したりする活動に意欲をもって取り組んでいる。一人一人が、それぞれの思いをもって育てている。 ・見たことや体験したこと、気付いたことを絵や文に表すことができる児童と苦手な児童との差が大きい。 ・校内や地域、身近な動植物に対する関心はあるが、自ら積極的に触れ合う意欲は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培活動、飼育活動、探検活動などの体験活動を多く取り入れ、児童の経験を増やし、児童の心が動くような学習計画を立て、実施する。 ・観察する際の視点やポイントを児童に明確に示し、段階に合わせた体験活動を実施していく。 ・本校・地域の特色に基づいた具体的な指導を実施して、児童の豊かな経験や気付きが保証されるようにする。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって授業に臨んでいる。規律を守れなかったり、活動に取り組むことができなかったりする児童がいる。 ・発声や音程に気を付けて歌える児童が多い。思いや意図をもって表現できる児童と苦手な児童との差が大きい。 ・鍵盤ハーモニカの演奏の技能に個人差があり、概ね指遣いに気を付けて吹けている。 ・聴いた音に対しての感受性はあるが、言葉で表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの指遣いやタンギングなどの技術を習得し、奏法の定着を図る。習得につまづきのある児童に対し、つまづきの状況に応じて教師が個別支援を行い教科書をもとにリズム学習を行う。 ・曲の歌詞や雰囲気から情景を思い浮かべて、声の大きさを感じ取り身体表現を工夫するように指導する。 ・リズム遊びやわらべうたを取り入れるなどの音に親しむ機会を増やし、音楽が好きな児童を増やしていく。 		

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成状況	
			2学期末	年度末
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての活動に関心が高く、楽しみながら、意欲的に取り組むことのできる児童が多い。 ・道具の基本的な扱いについての技能が不十分な児童がいる。 ・他者の作品に関心をもち、自分の作品に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な題材や素材を使った作品を提示したり、児童の目の前で使い方を見せて実践したりしながら、楽しみを膨らませ取り組みたくなるような意欲を引き出す。 ・ハサミ、のり、絵の具などの基本的な使い方を身に付けさせる。指先で糊をつける、紙をちぎるなど、指先をたくさん使わせる。 ・制作過程を細かく段階を踏んで視覚的に分かりやすく説明する。ヒントになるような言葉掛けをしたり取り組みを褒めたりして自信をもたせるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多い。生活経験の差から、体の動かし方が分からない児童がいる。 ・学習カードを活用し、学習の振り返りを行うことができる。 ・ペア学習やグループ活動によって、友達とかかわりあうことを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき6年生まで見通した縦の系統を意識して、様々な動きや思考が働く運動遊びを楽しみながら経験させていく。 ・単位時間での運動量を十分に確保するため、教師の説明や集合の回数を吟味する。話の聞き方や集団行動のルールを徹底し、児童一人一人てきぱきと行動できる規律のある集団を育てる。 ・教師が率先して努力していた児童を認めることで、児童同士でよいところを見付け合い、認め合えるようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみをもっており、活動に取り組まない子はいない。大人に読んでもらうことが好きである。 ・日常的な漢字の活用ができていない傾向がある。 ・最後まで落ち着いて話を聞くことや大事なことを落とさずに正しく聞きとることに課題がある。 ・考えをもち、皆の前で伝えることができる。 ・書く活動自体に苦手意識を感じる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のゴールを伝え、目的意識をもって、自分で計画的に学習しようとする姿勢を育てる。また、単元の終末には、自分の学習の成果や態度を振り返るようにし、次の学習に生かしていくよう指導する。 ・朝読書・図書の時間・家庭での読書の読書記録をつけ、振り返ることで読書を身近にする。教師が学習単位と関わりのある本を紹介したり、友達同士でお薦めの本を紹介しあったりすることで、読書の楽しさが味わえるようにする。 ・授業中に漢字練習の時間を確保する。学びが定着するように、研究授業として漢字の学習の仕方について検討する。 ・発表の時間をとり、全体に向けて発信することに慣れるようにする。話し手は伝えることを明確にし、聞き手は内容を考えながら聞くよう視覚的にポイントをわかりやすく提示する。 ・「はじめ・中・終わり」の構成、会話文の入れ方、原稿用紙の使い方などを、きめ細かく、達成感が得られるように指導する。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算のうち、たし算、ひき算は大多数ができています。かけ算、わり算は、正確に覚えていなかったり、わり算の仕組みの理解が不十分だったりする。ただし、いずれも個人差が大きい。 ・時刻と時間の理解ができていない。 ・文章から大事な言葉を見つけて立式することができる。 ・数の構成や量感をとらえることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりや繰り下がりやの筆算の方法を確認し、繰り返し問題を解くことで定着を図っていく。 ・日常的に時刻や時間を考える機会を設け、定着を図る。 ・文章問題から図をかき、図から立式するという流れをパターン化していく。 ・生活の中にあるものの量感や単位を意識した活動等を取り入れる。 ・自分の考えをもつ時間を確保し、ノートに書いたり、友達の考えを聞いたり、全体で発表したりする機会を充実させる。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物への興味・関心は高く、観察することには意欲的な児童が多い。一方で、観察の視点が分からず、記録することが苦手な児童がいる。また、比べたり、関連付けたりしたことをまとめた記述がないことが多い。 ・実験に対しては意欲的に取り組むことができる。 ・学習したことを生活に照らし合わせて、事象を考えたり汎用したりしていくことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の作成した観察カードを掲示するなど、観察したことをお互いに共有できるようにする。友達の良い視点に気付けるよう指導する。 ・ノートやプリントに問題・予想・結果・分かったことを書くことが定着していくよう指導し、ノートを確認する。 ・学習した植物や昆虫以外の生き物の生態にも触れ、興味関心を高めると共に、学習した内容を生活に生かすことができるようにする。単元の終末には、自分の学習の成果や態度を振り返るようにし、次の学習に生かしていくよう指導する。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・見たり聞いたり体験したりする活動は意欲的に取り組む。 ・資料を正確に読み取ることが難しい児童が多い。 ・学習内容を自分たちの生活と結び付けて考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを使って、写真などを見せて東西南北の知識を定着させる。 ・学習した内容と日常生活を結び付け、普段の生活に生かしていこうとする態度を育てていく。友達の意見を参考にする事の良さを伝え、自分の学習に生かすよう指導する。 		

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって授業に臨んでいる。規律を守れなかったり、活動に取り組むことができなかったりする児童がいる。 ・発声や音程に気を付けて歌える児童が多い。思いや意図をもって表現できる児童と苦手な児童との差が大きい。 ・ソプラノリコーダーの演奏の技能に個人差があり、概ね指遣いに気を付けて吹けている。 ・聴いた音に対しての感受性はあるが、言葉で表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソプラノリコーダーの指遣いやタンギングなどの技術を習得し、奏法の定着を図る。また、苦手意識のある児童に対して個別指導を行い、練習する時間を確保する。 ・歌詞の内容を考える場面を授業の中で設定して、内容にあった歌い方を自分たちで考えるように指導していく。 ・季節や行事に合わせた歌や、児童の意見に沿った曲を入れ、一人一人の声が合わさると音は広がりをもっていくことの経験をさせる。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての活動に関心が高く、楽しみながら、意欲的に取り組むことのできる児童が多い。 ・道具の基本的な扱いについての技能が不十分な児童がいる。 ・他者の作品に関心はもち、自分の作品に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を働かせやすいように、教師の試作品や、教科書などの参考作品を見せたり、ヒントになる言葉を具体的に示したりする。 ・製作途中でも、よくできているところを評価し意欲を持続できるようにする。また、その良さをクラス全体に紹介し、造形活動に活かす。 ・道具類（ハサミやノリ）の使い方は図工以外の教科でも、留意点や使い方のポイントを指導する。絵の具の使い方は技能的な指導（筆の使い方、混色など）も丁寧に行う。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多い。生活経験の差から、体の動かし方が分からない児童がいる。 ・学習カードを活用し、学習の振り返りを行うことができている。 ・友達と協力して学習に取り組むことが難しい児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいて、学年の系統を意識して、いろいろな動きや思考が働くことができる運動遊びを経験させていく。 ・児童に本時のめあてを明確に伝え、学習の見通しをもたせる。また、実演や友達の良い動きを共有していく。 ・上手に運動している児童だけでなく、運動が苦手な児童で、できなかったことができるようになった児童を紹介することで、友達のことを認め合えるようにし、運動の楽しさを味わわせる。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみをもつ児童が多い。読み聞かせなども好きである。 ・文章の読み取りが苦手な児童が多い。 ・話を理解しながら聞くことが苦手な児童がいる。 ・既習漢字の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書・図書の時間・家庭での読書の記録を付け、読書に親しみながら多くの文章に触れ、語彙を増やし文章を正しく読み取る力を付けていく。 ・相手意識をもって聞くように、聞く姿勢を大切にすると共に自分の考えをもち、比べたり同じ考えだつたりを意識して聞くように指導する。 ・漢字の習得の際に、国語辞典を利用して調べながら語彙を増やし、学習習慣を身に付けさせる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章から問われていることを正確に読み取ることができない。また、分かっている情報を読み取ることもできないため、問題解決に結びつかない。 ・わり算を中心に基礎計算につまずきがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や宿題などで計算練習を繰り返し行い、定着を図る。また、苦手な児童に対しては、授業中に個別対応する。（ベーシックドリルの活用） ・問題に正対して、式、図、言葉などを使った方法で表現する習慣を身に付けさせる。 ・授業の中で自分の考えを表現する場を意図的に設ける。（振り返りなど） 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物への興味・関心は高く、観察することには意欲的な児童が多い。一方で、観察の視点が分からず、記録することが苦手な児童がいる。また、比べたり、関連付けたりしたことをまとめた記述がないことが多い。 ・実験に対しては意欲的に取り組むことができる。ところが、探求のための手段として実験道具を活用するという意識は十分ではない。 ・学習したことを生活に照らし合わせて、事象を考えたり汎用したりしていくことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の作成した観察カードを掲示するなど、観察したことをお互いに共有できるようにする。友達の良い視点到に気付けるよう指導する。 ・ノートやプリントに問題・予想・結果・分かったことを書くことが定着していくよう指導し、ノートを確認する。 ・学習した植物や昆虫以外の生き物の生態にも触れ、興味関心を高めると共に、学習した内容を生活に生かすことができるようにする。単元の終末には、自分の学習の成果や態度を振り返るようにし、次の学習に生かしていくよう指導する。 ・問題把握、予想・仮説、観察・実験、結果、考察、結論といった探求のための基本的なプロセスを踏まえた学習を計画する。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・見たり聞いたり体験したりする活動は意欲的に取り組む。 ・地図帳で特産物や首都、国名など調べたり特徴を見つけたりするのが好き。 ・資料から考えられることを出せるようになってきている。実現する力、気付きの視点を増やしたい。 ・学習内容を自分たちの生活と結び付けて考えることができる児童が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカードやICTを使って、地図記号や東西南北の知識を定着させる。 ・学習のまとめとして、新聞を作成する際、読む人を意識した効果的なレイアウトや資料提示の工夫をしている作品を紹介し、相手や目的に応じて分かりやすくまとめ表現することの大切さを指導する。 ・学習した内容と日常生活を結び付け、普段の生活に生かしていこうとする態度を育てていく。友達の意見を参考にすることの良さを伝え、自分の学習に生かすよう指導する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書、タブレット、大型モニター等を使用することで、学習を補うことができている。 ・器楽合奏の発表する機会を設定し、幅広く様々な楽器に親しみ理解できるよう、意欲的に取り組んでいる。 ・自分の意見や感想を書いたり、発表したりすることに抵抗を感じる児童もいる。 ・リコーダー演奏の技能に個人差はあるが、概ね指遣いに気を付けて吹けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器（Google フォームやジャムボード等）を活用し、個別最適な学びを確保し、自分の考えを深めるペア学習やグループ活動等の協働的な学びの時間を設定する。 ・リコーダーのソ・ラ・シ・ド・レの基本的な指遣いを指導し、基礎的な知識や技能を定着させるために、反復練習をする。読譜が苦手な児童に対しては、音名をカタカナで記した補助楽譜を配布している。 ・すすんで音楽に関わり思いや意図がもてるように、運筆力が弱かったり、文章を書くことへ抵抗があったりする児童には、タブレットの有効な活動を取り入れ、音楽を楽しんで表現できる指導の工夫をする。 ・苦手意識のある児童に対して個別指導を行い、練習する時間を確保する。また、楽譜上に指穴のデザインを記譜し、おさえる場所を示す。 		

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・造形活動に関心が高く、楽しみながら取り組むことのできる児童が多い。 ・つくりたいものを発想することはできるが、自ら考えて形に表すことが難しい児童が若干いる。 ・はさみやカッターナイフ、筆など道具の扱い方についての理解は概ねできているが、手先の器用さなどの技能面で個人差がある。 ・友達や他学年児童、作家の作品に関心をもち、自分の作品に生かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を働かせやすいように、教師による参考作品や、過去の児童作品を見せたり、ヒントになる言葉を具体的に示したりする。また、児童の思いに合わせて形や色を表現できるよう、タブレットを活用させたり、教え合う活動を取り入れたりする。 ・道具類（カッターナイフや接着剤や彫刻刀）の正しく安全な使い方や留意点を、動画や実演をして見せることで丁寧に指導する。絵の具については、技能的な指導（筆の使い方、混色など）とともにモダンテクニックを使った多様な表現方法も体験させる。 ・活動途中でも、よくできているところを評価し意欲を持続できるようにする。また、そのよさをクラス全体に紹介し、造形活動に生かす。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・体育が好きな児童が多い。 ・外遊びを毎日している児童と、室内で休み時間を過ごしている児童との間で体力の差が顕著になってきた。 ・学習カードを活用し、授業の振り返りを（することができる）したり、学習の積み重ねを感じられるようにしたりすることを頑張っている。 ・ペア学習やグループ活動によって、友達とかかわりあうことを楽しんでいる。 ・準備運動や場の設定、作戦を考えるなど、教師が（その都度指示を出さなくても）全部面倒をみなくても自分たちで考えたり、工夫したりしながら動けるようになってきた。 ・体力がなく、体の動かし方が分からない児童が多い。 ・技能面の向上が厳しい様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動から、学習内容に沿った運動を取り入れ、実際に行う場を工夫することで、技能の向上を図る。 ・学習内容に合っためあてを提示し、児童が授業で何をやるのかの見通しがもてるようにし、積極的に運動に取り組めるようにする。 ・ルールの明確化・共有化を授業のはじめと終わりに行う。ゲームや運動を終えた後に相手を敬う気持ちをもてるように児童同士で話し合うことや、児童たちの振り返りから良い点を挙げ、自己肯定感を高める指導をしていく。 ・動きを動画で撮り、振り返ることで実際の様子を見ながら、改善点を見つけられるようにする。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しみをもっており、活動に取り組まない子はいない。大人に読んでもらうことが好きである。ただ、学年相応の本を選んだり主体的に読んだりすることができない児童もいる。 ・日常的な漢字の活用ができていない傾向がある。 ・最後まで落ち着いて話を聞くことや大事なことを落とさずに正しく聞きとることに課題がある。 ・考えをもつことはできるが、皆の前で伝えることが苦手な児童が多い。 ・学年相応の「書く」の目的に沿って、相手に伝わる文章を書くことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のゴールを伝え、目的意識をもって、自分で計画的に学習しようとする姿勢を育てる。また、単元の終末には、自分の学習の成果や態度を振り返るようにし、次の学習に生かしていくよう指導する。 ・図書の日や朝の読書で、読み聞かせをしたり本の紹介をしたりすることで、読書の幅を広げる。また、読書記録を活用し読書の幅を広げる。 ・漢字学習の際、国語辞典を活用しながら熟語を用いて文章を作ったり、新聞を読む機会を意図的に作ったりして語彙を広げる。短歌や俳句、詩などの学習を通して、言葉がもつよさを感じさせ、言葉を大切にしながら思いや考えを伝え合えるようにする。 ・感想や意見の交流を積極的に取り入れる。伝え方や聞き方のルールを定着させ、「話す時間」「聞く時間」を意識させる。 ・「漢字の広場」や「新聞を作ろう」などの活動で、原稿用紙の書き方、こそあど言葉、修飾語の指導を入れるよう意識し、それらの定着を図る。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・能力、技能、経験において個人差が大きい。 ・基礎的な計算の仕方が十分に理解できていない児童がいる。 ・筋道を立てたり見通しをもったりして考えることが苦手な児童がいる。 ・算数で活用する単位（量感覚を含む）を日常生活で意識して取り入れられていない。 ・算数で使う用具（定規・分度器・コンパスなど）の使い方が苦手な児童が多い。 ・自分の考えをノートなどに表現したり、友達に考えを伝えたりすることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算する力をつけるために、計算のきまりを意識したり概算したりする問題を重点的に指導する。（ベーシックドリルを活用） ・表や数直線をかき問題を繰り返し行い、表や数直線を用いて立式できるようにする。 日常で使われている単位の実際の大きさや同じくらいのもを例示し、単位のイメージがもてるようにしていく。 ・作図の順序を徹底し、分度器やコンパスを使ってずれないように作図ができるよう繰り返し練習する。 ・分からない問題に対して、答えを待つのではなく、自分で考える習慣をつけさせる。また、発表したり、友達の説明を聞いたりし、自分の考えを表現できるように指導していく。 ・自分の考えを共有する場面、補充問題を行う場面でICTを積極的に活用していく。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物への興味・関心は高く、観察することには意欲的な児童が多い。一方で、観察の視点が分からず、記録することが苦手な児童がいる。また、比べたり、関連付けたりしたことをまとめた記述がないことが多い。 ・実験に対しては意欲的に取り組むことができる。既習事項や生活経験を基に予想を立てることが苦手である。また、実験結果から結論を導いたり考察したりすることを一人で考えることに抵抗がある児童がいる。 ・学習したことを生活に照らし合わせて、事象を考えたり汎用したりしていくことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の目的や視点を明確に示しながら、細かな部分まで五感を用いて詳しく記録させる。また友達同士で観察カードを見合い、多様な視点に気付けるよう指導する。 ・ノートやプリントに問題・予想・結果・分かったことを整理してまとめる習慣をつける。 ・理科的な事象が日常生活と関わりがあることを知らせることで、主体的に問題解決を図れるようにする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・見たり聞いたり体験したりする活動は意欲的に取り組む。 ・資料を正確に読み取ることが大体できても、効果的に使って表現することが苦手な児童が多い。 ・学習内容を自分たちの生活と結び付けて考えることができる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に応じた教材を活用し、資料の読み取りを丁寧に行うことで、正確な解釈につなげていく。 ・学級、学年で新聞を読み合う活動をする。その際、「資料の使い方が工夫されているか」や「読み手にわかりやすく説明されているか」など読む観点をもたせることで、友達が作成した新聞から書き方を学べるようにする。 ・地域の施設や人材を効果的に活用したり、身近な事柄や体験的活動を取り上げた授業を意識して行ったりすることで、主体的に問題を解決したり生活経験と結び付けたりできるように指導する。 		

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
音楽	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書、タブレット、大型モニター等を使用することで、学習を補うことができている。 リコーダーや鍵盤楽器など、器楽演奏や合奏の技能に個人差があり、苦手意識をもっている児童は一部いる。 思いや意図をもって表現できる児童と苦手な児童との差はあるが、鼓笛活動が開始する学年でもあり、器楽演奏に対して身近に感じられる演奏活動を行っている。 自分の意見や感想を書いたり、発表したりすることに抵抗を感じる児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器（Google フォームやジャムボード等）を活用し、個別最適な学びを確保し、自分の考えを深めるペア学習やグループ活動等の協働的な学びの時間を設定する。 読譜が苦手な児童に対しては、引き続き音名をカタカナで記した補助楽譜を配布していく。 多様な楽器、とりわけ鼓笛活動（管楽器・打楽器）の音色を聴いたり試したりして、音楽活動にも意欲的に取り組める機会を設け、カリキュラムマネジメントを促進する。（題材のねらいに準拠した、器楽楽曲を管楽器や打楽器を取り入れる） 運筆力が弱かったり、文章を書くことへ抵抗があったりする児童には、タブレットの有効な活動を取り入れ、音楽を楽しんで表現できる指導の工夫をする。 		
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動に関心が高く、楽しみながら、意欲的に取り組むことのできる児童が多いが、深く考えてより良く表現する力が育っていない。 道具（電動系のこぎりや彫刻刀、C型クランプやのこぎりなど）については、85%以上の児童が正しく安全に使うことができている。しかし、のこぎりで木材を切る際、机を傷つけてしまう様子が散見された。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時、めあてを明確に示し、参考作品や友達の作品をもとに、この時間どんな活動がんばるのか、どの部分を工夫するのかを伝えて、よりよい表現ができるようにする。また、友達と作品を見合う時間を設定したり、考えや表現方法を共有したりすることで、気に入ったところや工夫を伝え合い色の表し方や作りなどのイメージをより深めていく。 用具の安全な扱い方を図や書画カメラ、動画などで明確に示すとともに、材料や道具の特徴を全体で共有する場面をつくる。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもち、楽しみながら意欲的に取り組んでいる児童が多い。 基礎的な技能の習得において、個人差が大きい。 ワークシートの記入の内容が乏しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の営みに係る見方・考え方に示される、「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の創造」「持続可能な社会の構築」4つの視点を提示し、学習内容を深めるために様々な視点から考えさせる。 タブレットPCの活用など、自分の課題を自分でどのように解決するかを決めさせるとともに、振り返りを行って個別最適な学習を進められるようにする。 自分の課題を達成できた時に、教師や児童相互がそれを認めあって自信をもてるようにする。 学習したことを家庭生活で活かすような実践を奨励し、発表の機会を設けていく。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きな児童が多いが、運動領域によって経験の差が大きく、運動技能に偏りや個人差がある。 学習カードを活用しているが、めあてを意識したり自分で設定したりして取り組みを振り返ることが難しい児童がいる。 ペア学習やグループ活動によって意欲が高まる児童が多いが、友達とのかかわりの中で教え合うまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の様々なめあてに沿った練習ができるよう、場の設定を工夫する。 技のコツやポイントを実演や図解などで理解させ、学習カードを活用し、学習の振り返りをしていく。 個人練習以外に見合う場を設けて、友達と教え合いながら、運動の楽しさを味わわせる。さまざまな運動や動きを取り入れたり、簡易化されたゲームを経験させたりすることで、体力の向上を図り、生涯にわたって運動に親しめるようにする。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 単語の発音や読み方について学んだり、外国語を使ったゲームに参加したりすることに意欲的な児童が多い。一方で、実際にコミュニケーションをとる場面で外国語を使うことに積極的になれない児童が多い。 ローマ字の書き方や身近な単語、動作等の読み方を苦手としている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 定着させたいフレーズや単語は、一人で発表する機会を作り、一人一人に自信を付けさせる。 フラッシュカードや、歌、チャンツなどを繰り返すことで身近な表現を身に付けられるように工夫する。 家庭でも、分からないところを復習したり、さらに定着を図るために練習したりできるように、デジタル教科書を活用させる。 毎回の授業で「聞く」「話す」「書く」など、45分間を細かく分けて少ない時間でたくさんの方に触れられるようにしていく。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に親しむ姿は見られるが、学年相応の本を読む児童は少ない。 ・文章構成を考えて書くことを苦手とする児童が多く、記述式の問題の正答率が低い。 ・漢字の定着ができておらず、日常生活で活用することに課題がある。 ・要点を押さえて読むことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書や図書時間を確保し、読書の習慣化を図り、読解力を高める。 ・朝学習や家庭学習で既習の漢字を活用するように声を掛け、日々のノート指導で、漢字の使い方を指導する。 ・書いた作品をペアや小グループで交流し、話し合い活動のよいモデルを示す。 ・身近な題材を教材として取り入れたり、相手意識・目的意識をもたせたりして、意図を明確にして発信することの大切さに気付かせる。 ・文章構成を練る時間を十分確保し、文章の書き方を丁寧に指導する。 ・ICTを活用した交流（話し合いなど）の機会を設ける。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の計算ができない。 ・既習事項を生かして、考えられる児童が少ない。 ・筋道立てて、説明することが苦手な児童が多い。 ・自分の考えに自信をもてない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別に依じて、基礎基本の計算問題に繰り返し取り組む。(休み時間の補習やeライブラリなどの活用) ・表や数直線、言葉などを効果的に使って相手に分かりやすく説明し合う場面を設ける。 ・ペアや小グループで相談し合う場面を設ける。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物に興味をもつ児童が多い。 ・実験や観察には、意欲的に取り組む児童が多い。 ・実験・観察結果から考察する力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、動植物に興味をもてるような環境を整える。 ・実物を見せたり、視覚教材を活用したりして、児童の興味・関心を高められるような授業をする。 ・社会における科学的な話題を取り上げて、科学的現象は普段の生活と関わりがあることを知らせ、実験や観察を通して自分の考えを表現させる。 ・必要に応じて、ワークシート等を活用し、実験・観察の記録や自分の考えをまとめる。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・表やグラフから読み取ることが苦手な児童が多い。 ・興味・関心をもって学習に臨む児童が多い。特に歴史学習は、興味をもって自ら学ぶ姿勢が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な資料やグラフなどから分かることを発表する機会を意図的に設ける。 ・班で共有する時間を設け、互いに確認しながら資料から情報を読み取るようにする。 ・気付いたことや考えたことをノートに記録し、知識理解の定着を図る。 ・ICT 機器や地図帳・資料集を活用する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書、タブレット、大型モニター等を使用することで、学習を補うことができた。意欲をもって授業に臨んでいるが、規律を守れず、活動に取り組むことが難しい児童がいる。 ・リコーダーや鍵盤楽器など、器楽演奏や合奏の技能に個人差があり、苦手意識のある児童がいる。 ・思いや意図をもって表現できる児童と苦手な児童との差が大きい。マスク着用のため、歌唱の指導と評価が難しかった。 ・思いや意図をもって表現できる児童と苦手な児童との差はあるが、鼓笛活動が本格始動する学年でもあり、器楽演奏に対して身近に感じられる演奏活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器（Google フォームやジャムボード等）を活用し、個別最適な学びを確保し、自分の考えを深めるペア学習やグループ活動等の協働的な学びの時間を設定する。 ・楽譜の読み方を教える過程で音名を記譜して、工夫しながら表現できる補助教材を用意する。 ・思いや意図をもつことができる教材を選択する。表現の場までの練習を見通し、活動を継続し続ける学習の流れを提示する。 ・多様な楽器、とりわけ鼓笛活動（管楽器・打楽器）の音色を聴いたり試したりして、音楽活動にも意欲的に取り組める機会を設け、カリキュラムマネジメントを促進する。(題材のねらいに準拠した、器楽楽曲を管楽器や打楽器を取り入れる) 		

令和5年度 府中市立府中第八小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 造形活動に関心が高く、楽しみながら取り組むことのできる児童が多いが、苦手意識から、発想の力が乏しく、自分の思いを色や形で表すのが難しい児童もいる。 色違いなどで形はほぼ同じなど、安易に友達の真似をして、自分の本当につくりたいものを表現することができない児童が散見される。 タブレットに頼りすぎて、自分の表現が模倣のようになってしまっている様子が見られる。 道具の基本的な扱いについての知識や技能、安全に対する配慮が不十分な児童が若干数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物や写真、図鑑などを用いて、各々の興味に合わせて活動のきっかけを見付けさせたり深めたりさせる。 工作用紙など、何度もつくり直すことができる材料を使って試行錯誤させたり、ワークシートにいくつもアイデアを出させたりして、自分が本当につくりたいものを考えさせる。 イラストをそっくりそのまま模写するのではなく、写真などリアルな資料を参考に作品に生かすよう声掛けをしていく。 用具の安全な扱い方を図や動画などで明確に示すとともに、材料や道具の特徴を全体で共有する場面をつくる。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に取り組む課題と、そうでない課題の差が大きい。 自分の生活と関連させて、課題や授業に取り組んでいる児童が少ない。 自身の活動を振り返って、ワークシート等にまとめるなど苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の営みに係る見方・考え方に示される、「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の創造」「持続可能な社会の構築」4つの視点を提示し、学習内容を深めるために様々な視点から考えさせる。 タブレットPCの活用など、自分の課題を自分でどのように解決するかを決めさせるとともに、振り返りを行って個別最適な学習を進められるようにする。 自分の課題を達成できた時に、教師や児童相互がそれを認めあって自信をもてるようにする。 学習したことを家庭生活で活かすような実践を奨励し、発表の機会を設けていく。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体育が好きな児童が多く、体力テストの結果も高い傾向にある。 集団行動が身につけていない。 技能差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動量を十分に確保し、児童が主体的に参加できるように授業づくりに努める。 授業場面以外でも、整列・集合の指導を徹底する。 ICTを活用して自分の動きを確認したり、ペアやグループで動きを互いに見合い、アドバイスする時間を設ける。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 自信のある児童と苦手意識のある児童との差が開いている。 進級し、評価がついてくる教科としての英語となり、意欲的に取り組もうとする姿勢が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に練習する時間を設け、個々に対応して丁寧に指導する。 毎回の授業で「聞く」「話す」「書く」など、45分間を細かく分けて少ない時間でたくさんことに触れられるようにしていく。 全体に向けて、発表する機会を設け、一人一人に自信を付けさせる。 家庭でも、分からないところを復習したり、さらに定着を図るために練習したりできるように、デジタル教科書を活用させる。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。